

第46回日本水環境学会年会併設 全国環境研協議会研究集会の概要

奈良県保健環境研究センター

平成23年3月16日に東洋大学白山第2キャンパス(東京都文京区)にて日本水環境学会年会併設全国環境研協議会研究集会(事務局:奈良県保健環境研究センター)を開催した。この研究集会は日本水環境学会実行委員会のご協力により、水環境分野の行政施策や調査研究の一層の充実を図るため、また、地環研会員同士の情報交換の場を設けるため、毎年、年会に併設して開催している。昨年は東日本大震災により研究集会は中止となったため、今回は2年ぶりの開催となり、地環研の研究員ら、約70名の参加があった。プログラムは特別講演と地環研の研究員による一般講演の2部により構成された。

特別講演では木村賢史教授(学校法人東海大学海洋学部海洋生物学科)により、「海洋生物と環境との関わりについて」の講演があった。講演内容の概要は、①海洋生物の多様性、②海洋生物の環境適応能力、③現在の研究紹介であった。絶滅したステラ海牛、ハオリムシやシロウリガイの環境適応、フジツボの生殖など普段あまり目にすることのない海洋生物の生態系についてたいへん興味深い話であった。海洋生物の環境適応能力についてはたくましさを感じたが、これは環境が穏やかに変化していく場合であって、急激な環境変化ではその結果は絶滅であるとのことであった。この急激な環境変化の一端を人類が加担していることを再認識しなければならないと考えられた。

一般講演では、(1)「東郷池に対する住民意識の実態及び五感に基づいた環境指標の検討」岩永氏(鳥取県衛環研)、(2)「千葉県版水辺環境指標について」飯村氏(千葉県環研セ)、(3)「微量元

素・安定同位体でみる富士山周辺湧水の地域特性」神谷氏(静岡県環衛科研)、(4)「環境修復地地下水中の微生物による揮発性有機化合物分解能力検討」宇佐美氏(三重県保環研)、(5)「大腸菌群数測定の課題と今後の動向」和波氏(東京都環科研)の5題の発表があった。

岩永氏からは、水質改善傾向にある東郷池での住民意識の把握のため、五感チェック調査による環境指標の設定について検討され、その結果、現実よりもイメージの方が悪かったが、実際に池を見ると池への評価が上がるとの発表があった。

飯村氏からは、千葉県の地域特性を考慮した初心者も参加しやすい水辺環境指標(2009年作成)についての発表があり、調査項目は「自然な姿」「豊かな生物」「快適な水辺」「水のきれいさ」を軸とした現場での分析操作が不要な12項目であった。

神谷氏からは、富士山周辺域での効率的な地下水保全・涵養対策の提案のため、「富士山における水循環の解明と持続可能な地下水利用に関する研究」がなされており、富士山周辺域の地下水・湧水の起源や涵養域の推定のために溶存微量元素、安定同位体(水、ストロンチウム)の測定結果について、発表があった。

宇佐美氏からは、VOCが主な汚染物質である環境修復現場で、その浄化対策として、現場環境中での微生物がVOCを分解する能力、およびVOCが減少した地下水から菌を単離・同定し、VOC分解能力の確認を行い、現場でのMNA適応可能性の検討について、発表があった。

和波氏からは、都内水域で大腸菌群数、大腸菌数、糞便性大腸菌群数、糞便性連鎖球菌数および

ウエルシュ菌芽胞数の測定結果、および下水処理水が流入していない地点についての大腸菌群数中の大腸菌割合等の発表があった。

プログラム

・開催あいさつ

全国環境研協議会企画部会長(奈良県保健環境研究センター所長) 大前 利隆

・第1部 特別講演

「海洋生物と環境との関わりについて」

学校法人東海大学海洋学部教授 木村 賢史

・第2部 一般講演

(座長：奈良県保健環境研究センター

兎本 文昭)

(1) 東郷池に対する住民意識の実態及び五感に基づいた環境指標の検討

鳥取県衛生環境研究所 岩永 千歳

(2) 「千葉県版」水辺環境指標について

千葉県環境研究センター 飯村 晃

(3) 微量元素・安定同位体でみる富士山周辺湧水の地域特性

静岡県環境衛生科学研究所 神谷 貴文

(4) 環境修復地地下水中の微生物による揮発性有機化合物分解能力検討

三重県保健環境研究所 宇佐美敦子

(5) 大腸菌群数測定 of 課題と今後の動向

(助)東京都環境整備公社東京都環境科学研究所

和波 一夫